

鬼遊び

こおり鬼

遊び方

- ・校庭や体育館で行います。人数によってコート
の広さと鬼の数は自由に変えることが
できます。
- ・鬼は子を追いかけてタッチすると子は凍り、固
まってその場から動けなくなります。鬼が、
子を全員凍らせたらゲームは終了です。
- ・凍っている子は、逃がっている子にタッチされ
ると解凍され、再度ゲームに参加するこ
とができます。
- ・鬼を長時間続けると疲れてモチベーション
は低下しますし、なかなか全員を凍らせる
ことはできません。そのため3分程度で鬼
を交代するとよいでしょう。

アレンジの方法

- ・コートを狭くすると鬼も子も常に動いてい
なくてはいけないので、運動量が増します。
- ・子がタッチしたら解凍するのではなく、子2人
で手をつなぎ、頭から足まで輪を通すこと
で解凍することにすれば、仲間とのコミュニ
ケーションも生まれ楽しいでしょう(図1)。

遊びの効果

- 持久力の向上
- 巧緻性の向上

■ 特徴・楽しさ

この遊びは、持久力と巧緻性などの体力要素の向上が期待されます。鬼遊びの運動特性から「追いかける一追いかけられる」という関係のなかで、ある一定時間走り続けることになります。また、鬼は子の動きに合わせてタッチしたり、子は鬼のタッチをかわしたりすることで、巧みに動く力を養うことができます。持久力や走能力が低い子は早くタッチされ凍ることになります。しかし、このことによって休憩することができ、解凍されればまたすぐに全力で走ることができるよさがあり、運動が苦手な子どもであっても継続して遊ぶことができます。

凍った子の解凍の仕方を工夫すると楽しさが増します。例えば図1にあるように、ペアで協力して解凍したり、凍った子はバナナになり、そのバナナの皮をむくと解凍され復活したりする(バナナ鬼、図2)など、子どもたちと相談して自由にアレンジすることも特徴の1つです。

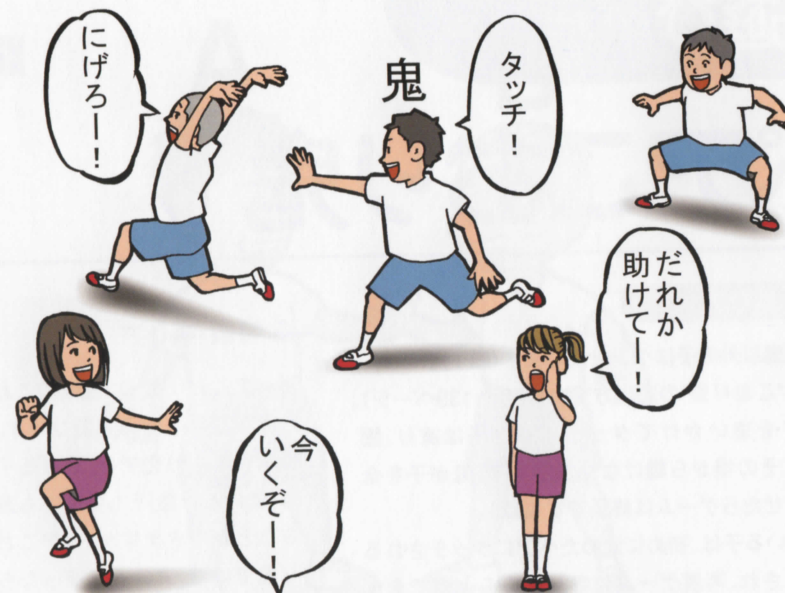


図1



図2

